

ネット市場相次ぎ開場

瀬戸内ネット6月

10月 北関東コンソーシアム

地方の市場が連携してインターネット上に仮想市場を開設、大都市の卸売市場に頼りがちな花きの大口出荷を、IT活用により取り戻そうとする動きが本格化になってきた。6月1日から「瀬戸内ネット」、10月からは「北関東コンソーシアム」が本稼働する。

地方市場が連携進める



北関東コンソーシアム設立発表会でかたい握手。(左から)阿部 福島花き、相馬群馬県中央園芸、佐藤茨城県水戸中央花き社長

「瀬戸内ネット」には岡山県生花卸園(岡山市中央卸売市場)・園花瀬(広島市中央卸売市場)・園高松(高松市中央卸売市場)・園高松(高松市中央卸売市場)が参加、瀬戸内ネットは農水省の平成14年度食品流通高度化プロジェクト事業により実

証試験が行われ、6月からはいよいよ本稼働の運びとなった。同ネットは、取引日の2日前の午後3時から前日の午後3時まで開店。出荷者から送られたデータに基づきネットに上場された花を見て、買参人が選んで購入できる。市場A向けに出荷される荷でも、市場B、C等の買参人が仕入れることができ、通常仕入れの荷と同時に受け取る事ができる。一方、このほど計画が発表されたのが「北関東コンソーシアム」。北関東および東北南部の拠点市場である、群馬県中央園芸(高崎市総合卸売市場)・園福島(福島市中央卸売市場)・園茨城水戸中央花き市場(水戸市公設地方卸売市場)の3社がインターネット上

に仮想市場を設けることにした。共同仕入れ・販売を行うネットワーク連携を図る。北関東地域花き卸売市場「卸売市場間ネットワークシステム」推進協議会(通称「北関東コンソーシアム」相馬正一会長)で、農水省の平成14年度補正予算「ITフードチェーン確立事業」。

今回の設立により、①産地情報を共有し相互の買参人への供給体制を強化の共同仕入れ体制を作ること、②主要産地との取引の現実的な大型産地との取引の実現、③共同配送システムを構築し物流コストの削減を図り、相互保証を行うことで産地への信用向上など、効果が期待される。

本稼働は10月から、年間60〜70億円規模での共同仕入れを目指す。共同荷受所は埼玉県川越市・全農の川越荷受所を利用。

相馬会長は「北関東コンソーシアムは1年余りの検討を重ね、農水省のモデル事業であった瀬戸内ネットを踏み込んだ共同荷受・仕

入れ・支払いの仕組みとして、農水省の支援を得つつ本年秋に本格稼働に向けた。新しい姿、機構であり、力を合わせ成功させていきたい」と語る。なげ、今回のシステム提供は、パインナル情報システム(東京都港区)が行っており、コンソーシアム取引を各地に拡大し、それらの連携を図っていく方針。



発行所
花卉園芸新聞社
 〒460-0002
 名古屋市中区丸の内2-18-13
 TEL 052-201-5771
 FAX 052-201-6239
 東京支店 千代田区神田佐久間15-33
 TEL 03-3864-3627 FAX 3628
 © 花卉園芸新聞社 2003
 旬刊 毎月5・15・25日発行
 年間購読料 8700円(税別) 送料別
 2年分購読料 16200円(税別) 送料別
 郵便振替 00810-5-23015
 ニュースをお待ちしています
 TEL 052-201-5771 編集部まで